

能登谷 繁議員の大綱質疑

農家に物価高騰支援を

能登谷繁議員は、6月15日の大綱質疑に立ち、物価高騰で苦しむ農家の現状について事前に市内農家5軒から意見を伺いながら、農家支援を提案しました。

能登谷議員は、「ホクレンが発表した肥料の値上げ78・5%と、旭川市が提案している農家支援の肥料の高騰割合11・5%では、物価高騰の現状と大きく乖離している。しかも、物価高騰は肥料だけではなく、燃料や資材、農機具も上がり、農家は「四重苦」になっている実態を明らかにし、事態に即した支援が必要と提案しました。



能登谷 繁議員

にし、事態に即した支援が必要と提案しました。

加藤章広農政部長は、「物価高騰、国際的な食糧不足は、食料自給率の低い我が国においては深刻な問題、食料基地の北海道が求められる役割もさらに高まっていく」と述べ、「国に対して財源の確保をはじめ、さらなる支援策を要望しつつ、本市独自の支援策についても検討してまいります」と答弁しました。

さらに、今津寛介市長は、「議員からご指摘のありました物価高騰等で大きな影響を受けている農業者をはじめ、市民や事業者の声に私自身がしっかりと耳を傾け、真に必要な方に支援が行き届くよう、困難な状況に直面する市民や事業者を支えてまいりたいと考えております」と応えまし

石川厚子議員の一般質問

市立保育所の存続を

一般質問で、石川厚子議員は市立保育所の在り方を取り上げました。

現在、旭川市内に市立保育所は3か所しかありません。市は、そのうちの1か所である新旭川保育所の閉所を検討しています。

新旭川保育所は、特別支援保育の対象児童を多く受け入れているほか、看護師を配置し、医療的ケアの必要な比較的障害の程度が重い子どもの受け入れなどの実績があります。また市内に2か所しかない病後児保育の一翼を担い、保護者の



石川 厚子 議員

多様な就労に合わせたニーズに対応しています。

パブリックコメントでも「新旭川保育所をなくさないで」「市立保育所を減らさないでほしい」という意見が多数寄せられています。「新旭川保育所は充足率60%で、ゆったりしている質の高い保育ができていく」との声もあります。

副市長が「保育のサービスを適切に、また継続的に行き渡らせるためにも、需要に合わせて適正規模の供給体制を取ることが必要である」と答弁したように、市は新旭川保育所閉所後、残る2つの保育所のどちらか一方を民間移譲し、ゆくゆくは市立保育所をゼロにする方向性です。

石川議員は「保護者から質の高い保育と評価されている市立保育所は、なくすべきではない」と訴えました。

まじま隆英議員の一般質問

いじめのない学校や社会へ

まじま隆英議員は第三者委員会が中間報告でいじめの存在を明らかにしたことから、「教育委員会がこれまでに把握していた情報でも、いじめがあったと判断できたのではないか」と質しました。

教育委員会は「事実6項目のうち5項目について概ね把握していたものの、いじめの認知には至らなかった」と答弁しました。



まじま 隆英 議員

5項目を把握していたのから積極的な認知が必要だったのではないか。学校と教育委員会の責任が問われる」と指摘し、「教育委員会は市民や当該学校に対してどのように説明責任を果たしていくのか」と追及しました。

教育委員会は「議会への報告や記者会見等が必要に応じて行い、説明責任を果たすことができるよう努めていく。当該学校に対しても丁寧な対応を行う」と答弁しました。

まじま議員は「いじめのない学校や社会に向け、環境整備が待ったなしの課題ではないか」と見解を求めました。教育長は、「教員がゆとりをもって、児童生徒1人1人にきめ細かく対応できるよう、学校における働き方改革や少人数学級の取り組みを推進していく」と答弁しました。

小松あきら議員の質疑

保健所職員の過重労働を質す

五月に開会された第二回定例会に四十七億円の新型コロナウイルスに関する補正予算が提案されました。医療検査体制や生活支援など、どれも必要な予算でした。

小松あきら議員は、予算審議で保健所の感染対策・ワクチン接種の体制について質疑しました。五月は、一日の感染者数が三百名を超過し、自宅待機者も連日二千名を超過状況でした。

市民の安全・安心確保に保健所の職員は連日の長時間勤務となりました。小松議員は、三月以降だけでも



小松 あきら 議員

連続して「月の時間外勤務が八〇時間を超す職員が22名、一〇〇時間を超す職員が15名、一六〇時間を超す職員もいる」、「コロナの感染対応は三年目なのに、十分な人員配置ができておらず問題がある」と指摘。

また、「市民の健康を守るうえで、担当部署の職員が健康を害しては元も子もない」と改善を求めました。

これに対し、「人事を所管する総務部長と菅野副市長は、それぞれ「保健所の職員の皆さんには、大きな負担を強いており、大変申し訳なく思っている。工夫しながらなんとか負担軽減に努めたい」と答弁。

市議団は、五月に市長に対して「保健所からの応援要請には一〇〇%応えるべき」と要請も行ってきていました。